

る大寧寺を、今まで、ぼくは気にも止めていませんでした。永平寺と同じように歴史のある寺なのに、いつもは、あまりにも身近にありすぎて、気がつきませんでした。郷土の歴史をひもとくことは時には必要で、大寧寺の今日に至った経過を、少し調べただけで

楽踊に参加して

深川中学校3年 岩男 誠

僕は、今年の八月に楽踊の依頼を持ち込まれた時、しばらく考えたがその依頼を受けることにした。

その理由は、小学五年生の時にも鉦打ちで出たことがある、一種の興味があつたためだ。しかも今回は、胴取、杖使いと同じく二名しかない団扇使いとしてだ。

また、報酬が出るのを知っていたからとも言えるかも知れない。

しかし、練習をはじめてみると、何もかもさっぱり分からず、何をどうすればよいのか見当も付かなかつた。

「こんな短期間で練習して報酬に値するほどの踊りができるだろうか。」と心配だったが、何度か繰り返し練習す

態になったとのことだ。僕の考えでは、経費問題は寄付を募り、青少年の減少は他の部落の者を連れて来れば廃止を防ぐ事ができたのではないかと、と思う。

五つあつた楽踊のうち、一つ消え、二つ消え、今では、僕達が踊った「月の前の伶楽」(江良、藤中、中山でローテーション)と、「虎の子渡し」(上川西、下川西、上ノ原開作)の二つしか残っていないとは、とても残念だと思つて練習を続けていると、目に見えて上達していった。そして前日にはもうみんなほとんど完璧に踊れる様になった。

ただ、団扇使いの僕は団扇を二十分以上も持っているのがかなりの苦痛だった。

本番の時に腕が疲れると考えるとだんだん心が暗くなつていったものだ。

そして、その日に前払いの報酬をもらい、ただでさえ不安な心に更に責任というプレッシャーがのしかかった。

当日の九月十日、天気は良好で日射しもかなり強かつた。気温が高いのに厚着を強いられ、順番待ちの時も暑くて仕方がなかつた。

順番待ちの時に、「虎の子渡し」の踊りを見たが、踊りの型が微妙に違っている事に

気が付いた。衣装、鉦打ちの動きはだいたい同じようだが、胴取、団扇使いの動きに異なる部分があつた様だ。

とうとう僕達の番がまわつて来た。出て行き、輪を作り踊りがはじまつた。

「今日が最後だ。今日のこの為に練習をしてきたんだ。」と思うと、わりと落ち着いて踊れた。

腕、特に右腕が疲労で痛んだがあまり気にならなかつた。また、汗で顔がびしょりになつて汗が目に入つたりしたが、さほど苦痛ではなかつた。

「汗をぬぐつたら、それが人の眼にどう映るだろうか。」と思つたら汗をぬぐう気にもならなかつた。踊りが終わった時、自分も一員となつてやりとげたとという充実感があつた。

それから飯山八幡宮で短い踊りをして、恵光苑へ出張した。すでに足は棒の様になり、慣れないわらじの結び目も痛む。恵光苑までの道がとてつもなく長く感じたのは多分僕だけではないと思う。

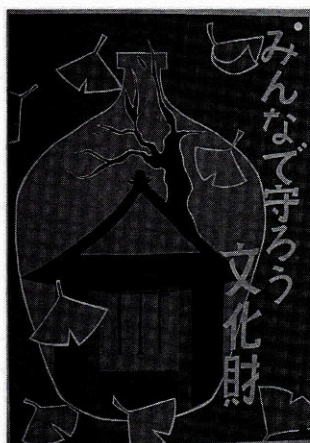
後でわらじの結び目の所を見ると、ママが計三つできていた。あのママで恵光苑まで歩き、またそこで、奉納の時と同じ踊りをやつた自分がち

よつと信じられない。始まる前は「早く終わつたら肩の荷がおりていいのに」と思っていたが、終わつてみると、「楽しかつた、またやりたいな」という気持ちに変わつていったのが不思議だ。

今度、十月二十一日に深川地区の体育大会で踊つてほしいと要請があつたそうだ。

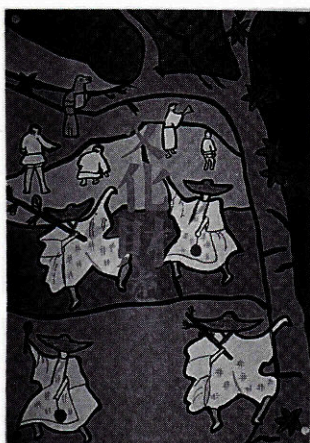
その時は、また腕が痛むだろうけど、足にママができるだろうけど、一生懸命に踊つてみんなに見てもらおうと思ふ。

■ポスターの部 特選



深川中学校3年 鈴木規知代

●ポスターの部 入選



深中大畑分校2年 山本祥子

- 〔深川中学校大畑分校2年〕
河添 直子・池田奈邦子
- 〔深川中学校 3年〕
石川 妙子・山田 延子
小林 篤子・岡藤 里実